

大東アーカイブス 第14回 企画展

大東の周年記念事業 — 10周年から80周年までを振り返る —

展示期間：平成25年6月17日(月)～平成25年9月30日(月)

(開室時間 毎週月～金曜日 9:00～17:00)

展示場所：大東文化歴史資料館 展示室(板橋校舎2号館1階)

本年度、2013(平成25)年9月20日、本学は創立90周年を迎えます。

1923(大正12)年9月20日に大東文化学院の設立認可を受けて以降、これまで、10年の節目には必ず記念式典や周年行事、記念事業、出版刊行等が行われてきました。

本学の目指す基本理念は変わらなくとも、各時代で学園の状況は大きく異なります。新学部を設置や学部学科の再編、新たな校地への移転や新校舎研究棟などの建築、キャンパス・グラウンドの再開発に至るまで、周年記念事業を機として学内環境の整備が行われることも、よくあることでした。

これまでの周年記念事業を振り返ると、そこには各時代に目指していた、大東文化学園発展への展望が見えてきます。

今回の企画展では、刊行された記念出版物を中心に、過去の記念式典やその準備過程の事務記録綴等も併せて展示し、ご覧いただくことにしました。



* 所蔵資料紹介 * 2012年度受贈資料から

『東京文政大学 図書目録』

2012年度に板橋図書課より学内移管され、歴史資料館所蔵となった『東京文政大学・図書目録』。

敗戦後、1949(昭和24)年度より新制大学が実施され、大東文化学院専門学校も新制大学へ昇格することとなります。ただし、そのためには校名変更が必須条件でした。「大東文化」は、戦時下の政治色が強いように見られたためです。苦慮の末に決定された校名が、「東京文政大学」でした。

「東京文政大学」は、1951(昭和26)年には「文政大学」と改称され、同窓生や関係者の強い希望によって1953(昭和28)年からは「大東文化大学」へ復することとなりました。結果として、「東京文政大学」としても「文政大学」としても卒業生を送り出すことは一度もなく、大学一期生の卒業証には「大東文化大学」と記されました。そのため、「東京文政大学」は幻の校名と呼ばれるようにもなりました。

さて、実質的に2年足らずの間しか存在することのなかった「東京文政大学」の、『図書目録』の綴りが板橋図書館の倉庫内に保管されていました。1945(昭和20)年4月の空襲により校舎が罹災し、図書もほとんどすべて焼けて失ってしまっ後、新制大学として再出発するために必要な図書を一から集め、一冊ずつ書店や個人から購入していった記録が残されています。やはり漢籍の所蔵比率が高いものの、経済学、法学、教育学関連のものなども多く見られます。



(歴史資料館運営委員 浅沼薫奈)